竜丘村公民館報
No. 43
発行人 木下右治
編集人
編集部
印刷所 竜共印刷株式会社
発行所 竜丘村公民館

凶作の悩み深刻

挙げて打解に全力を
本村の対策決定す

☆……今や数十年に及ぶ全国的の凶作に見舞われた。本村も其の……☆
☆……難まぬがれがたく、一年に亘る稲作の労苦も収穫を目前に……☆
☆……して、無惨にも水の泡となつた。そして後に来るべきもの……☆
☆……は、先ず生活苦である事を覚悟しなければならぬ。……☆
☆……本村もこの凶作に対処すべく各機関が一丸となり、凶作対……☆
☆……策協議会を作り、本部を役場に置き次の様な具体策を発表……☆
☆……した。

過ぎた凶作　来る生活苦

凶作の実態は深刻であり農業収入の激減は正に動かし難い事実となつた。然し乍ら吾々は今頃幾ら不運を愚痴たり、諦め言をぼやいてみた所でそれがとれない米に替るものではない。今こそ此の原因をよく検討して不作を繰返さぬ準備をすると共に、当面の自力計画を立てそれを頑張つてやりぬいて行く決意を固める秋であり、この冬は今迄の構えを変えて鉢巻きで切抜く新しい肚が必要だと思う。

村は次のような策を立てました

村では各機関が一丸となつて対策協議会を作り、全村的に実態を調べ、重点を捉え、統一的な対策を立てました。今后逐次具体的な方策を進めるつもりですから、家庭として又村民として協力を願うと共にどし〳〵連絡や相談をかけて下さい。対策の大要は次の通りです。

(一) 行政措置
1 凶作対策全般関係
2 対外交渉と陳情
3 割当供出の適正化
4 所得特に農業所得の適正化
5 賽金、補償金の徴得
6 季節労務の斡旋
7 配給食糧の確保

(二) 各戸の経営、生活計画の樹立
1 収入増加計画
2 農閑期の兼業収入
3 副業のとり入れ
4 消費の合理化
5 食生活の工夫改善
6 人体保健と家畜衛生
7 営農形態の検討（養蚕と畜産）
8 生活賽金と生活資金の導入
9 「ひまさえ」の排除

(三) 技術指導
1 秋作穂入上の注意
2 レンゲ田の作り方
3 麦作の作り方（品種とその組合せ、種子の入手、塩選、消毒、田麦をどうやるか、施肥管理、来年端境期の麦食のこと等）
4 麦作以外の換金作物
5 桑園の改良、増反も併せ研究

(四) 調査研究
1 原因―経過―結果の実態
2 その集計と判決
3 耕耘機、畜耕、手打の長短
4 消毒材、方法の長短
5 苗代様式の長短

併せて考えられること

現在の社会では生活は結局各戸の自己責任とゆう形であり、又家々でその「まわし」かたが異るので、各農家がどんな行き方をとるかは、要するにその家の考え方で決まるわけですが、特に前記の(二)と(三)の点は最非工夫を願いたいと思います。

又右の理由からしてもこの難関を切抜け、この冬から来春にかけて一層の増収をする為の最后の心構は結局農家自身の意志と努力だとも云えますので自主的な勇を鼓して下さい。

説論

凶作対策の重点と村民の決意

農事研究会長　原　西三

さてこうした大凶作の対策は如何にあれば良いか。先づ恒久的国家的対策を考え、次に当面の諸問題を考えよう。

普通米作の豊凶と云うのは、平年作に対して全国平均五%の増減があれば豊作と云い凶作と云われ十%、の増減は大豊作大凶作と云われる位、米作と云うものは比較的安定した作柄の作物であるが、本年の不作は実に数十年来のものであり、更に今春の麦作が半作乃至三分の一作と云う不作であつた為、其の影響は非常に大きい。特に長野県、岩手県、北海道等は全面的に非常なる不作で其の他の全国的不作の比でないと云われている。

本村も実に平年作に対し減収率四〇%を越す大凶作である。この不作の影響は各方面に亘つて深刻をきわめる。国とすれば外米を輸入すれば大量の外貨を支払い、米の国際価格をつり上げ、工業原料を輸入をする金がなくなり、且つ国内に於ける工業生産物に対する購買力を減じ販路をせばめる。一方原料不足にともなう悪性インフレによるコスト高は貿易立国工業立国の夢を破る結果になる。或はすべてをMSAにたよるとすれば民族の独立は期し難い。

1 国民の米食率を減らし麦類いも類、乳、肉等の食率を増やす。
2 土地改良並に品種改良により、米の反収増加をはかる。
3 原野の開拓干拓等により耕地牧草地を増加し麦類いも類畜産物の生産を増加する。

大略以上の目的を推進する事が出来る様な政策を行わねばならない次は当面の諸問題である。第一に減収の程度を正確につかむ事だ。供出量や共済金にわくがあるからと云つて、被害を過少に見る事は非常なあやまりである。

来年は来年はと努力を重ねても中々思う様に行かない。そしてたま〳〵今年の様な稀有の大凶作だ。

凶作を挽回するに特に珍妙な奇策ああるとは思えませんし、これ以上の不作が重ねて来ないとは断言出来ません。平年作であつてもと〳〵改善検討の余地が多々ある本村の農業だつたのですから、要は経営と生活とを一家として又一村として絶えず合理強化して、一旦の凶作に倒れないように工夫を積むことだと思います。農業の改良然り、生活の改善然り、商工業の振興又然りだと思います。不幸にして凶作は現実となりました当局としては万全を期して対策を進めたいと思いますから、それを全村の方々も受けとめて起上つて下さい。（村当局談）

進められる具体策

① 産業振興策

役場、農委、農協では予て本村の農業振興五ケ年計画を決定して蚕桑と畜産に重点をおいて進めて来たが、今回蚕業振興三ケ年計画を具体化し夫々議会、農委、理事会の承認を得て実行に移すこと、なつた。そのねらいは且つて八万〆の産繭を示した本村が、今日三万〆に足らない実況にあるに鑑み向う三年間に生産性の低い普通畑を約九〇町歩桑園に切替え改良して、十万〆を目途に経済力を培いたいとゆうもので、その為に桑苗代様式の長短

桑苗代に当座金がいらないのだから各農家はこの復興計画にとびこんで、凶作の傷手を克服し更に明るい将来への希望をもつてほしいと当局は切望している。

② 粉食奨励策

米がとれない、麦を喰べねばならぬがうどん許りでも行けない、食パンで目に一度位は行けぬものかと悩が悩んでいる時、前からその対策を要望されていた所村の農協が立つて、今回優秀なパン焼設備をすると発表した。実に凶作時にマッチした措置である。機械は新式のもので一度に三千食が焼かれて甘く安く需要者に喜えたいとゆう。公民館でも近く婦人学級の課目にとり入れて、パン食の栄養的なべ方を普及することゝなつているが、これを単なるきょう作対策に終らせないで根本的な食生活の改善に盛り上げたいものだ。学校給食への研究も大いにやつて貰いたいとゆう家庭の声も高い。

第三は労力に適当した作付面積の麦作に力をそゝぐ事と、麦其の他の雑穀並乳、肉等を出来る丈食べ米食を節する事だ。

第四は村民に精神的げきれいを与え、明日の農村への希望を失わせない事が何よりも大切である。

そのためには農民の政治的地位の向上をはかり、或は精神的打撃を救う為、村内に於ける文化活動を盛んにし、人心を慰めると共に、生活にけんたいや疲労を感じさせない心遣いがなければならない。耐乏生活は希望が無ければ出来ない。経済的政治的努力が払われると共に公民館による各種各方面にわたる文化活動が盛んに行われる事になれば、我々は今年の様な大凶年も明日への希望に燃えて耐乏生活も易々として行われるわけだ われ〳〵百姓の精神的経済的だげきは大きい。供出割当共済金の配給等については、明年度再生産への意欲を失わせない様経済的余力を持たせる様、政治的撰挙に村としてつとめるべきであつて、天下り的割当をうのみにして、真の減収率を無視して各農家に割当るとすればたとえそれが村内に於て公平であつても、他県と比較し甚だしい過重となるし、更に全国が稍公平に割当られても、災害を実際以上に軽く見る事は、さなくとも政治的に軽く見られ易い農民の立場を一層不利にする結果になる。第二は冬期間並明年度生産資金の融資をはかること。

村の歴史

中田美穂

⑥ A 井筋 桐林の井筋 B 中溝井

文録年中の雷表紙検地帳には、特又村が米作の上位の村に指定されている事はすでに上述の通りだが、然らば当時新川の水を利用するのに、どこの地点で堰き入れたかという事は未だ判明せぬが、現在の地名から見てチョーセンナギ（長石谷）附近と見るが至当と考える。長石寺が念通寺山附近に有つて現在の地へ移つたというのは単なる伝説だが、長石寺の用水は或る時代には駄科念通寺山麓から引水して、その余水は時又の水田に利用した事はあつた。

駄科の中溝井の出来る以前に新川の湾曲附近に取り入れた水を新川段崖の上を流れ、長野原の御殿塚、金山神社附近を貫いて、長石寺の用水にしたと伝える井筋がある。この井筋には桶の口、長溝谷（チョーセンナギと呼ぶがチョーセキナギの転化だと思う）ゲンチヨーナギ（建長ナギか）等の地名が残り、その遺跡は又判然しているから、長石寺の縁起と関連して考察して興味深いものがある。

大井の出来るまでは念通寺らで新川の水を利用した中溝井が駄科の用水になつていた。

C 伊賀良井

承保年間（約九百年前）に伊賀良庄北方南郷の両村を領した奥山平太夫が、松川より引水して笛吹の居館の用水としたのが伊賀良井の開始で、太郎井は中仙道井荒井とも呼び、大瀬木、三日市場を経て上川路に及ぶ水系で、次郎井は伊賀良井大井北方井とも呼んで、其の水域は北方、殿岡を始め鵜、松尾、竜丘の諸村に及んでいる。

奥山氏、江馬氏と続いた伊賀良庄地頭は小笠原氏の時代には、一色、長熊を経て松尾城に引水した又一方鈴岡城へは毛賀沢で上げ井にして引水した。其の遺跡は現在殿岡、遠見原の北面の山中に残存している。

屋長十七年に飯田城主小笠原秀政は鈴岡城を改修の意図で外濠へ濯水のために、殿岡、遠見原の中央部を貫通する水路を掘り、引水したが、翌十八年に秀政は松本へ移封になつたので、実際に城郭の再現は出来なかつた。

江戸時代になり自然増加は新田開発が要請され、元和三年飯田藩主に着任した脇坂安元は、この鈴岡城の水を更に延長して駄科、時又の開田に努める工事を督して、駄科の低地に巨大な堰塘を築き、多くの資材と人工を投じ、長野原地籍えの引水に成功し、之に依りこの地方米作産業の発展に貢献した。更に製紙業の盛大になつたのもこの水の恵みであつた。

藩主が堀氏の時代になると一貫した伊賀良井は重要な産業開発の根幹として保護されて、北方に井守を置き、各村に井掛があつて補佐し、毎年春の井ざらいには飯田藩から代官が見分に巡視して、駄科村で夕飯を供するのが例になつていた。

水番の制度も仰付けられ、毎日各村から当番が出て井筋を巡行し警戒保全に力めた。寛文十二年に長野原村が駄科から独立して、伊賀良井に関する権利義務を享受獲得することになつた。

この井筋の経費は左の伊賀良井高（生産額）を基礎に算定され、人足の割付には見得高を用い、戸数は便宜上宝永年間のものを併記してみる。

字名	伊賀良井高	人足高	戸数
駄科	368俵	111人	39戸
桐林	850俵	157人	71戸
長野原	165俵	44人	22戸
時又	272俵	313人	56戸
上川路			32戸

起源の古く水域広大な伊賀良井は種々の旧規慣例が今年に至る迄確く守られている。

隨想リレー（三）

（次回は中田今朝子さんにバトンが渡された）

映画に就て

松原　藻人

映画は単に娯楽としてのみ鑑賞する時代はすでに過ぎた。映画ほど多く人にすかれ、多くの者に観られるものはない。それだけに映画の与える教育は広くて深い。田舎に居て都会生活に接し、世界の自然や人情風俗に接し得られる機会は映画による外はない。映画を鑑賞する事によつて複雑な人間の機微聚聯や、広い社会諸相を知る事が出来るのであつて、社会教育の重要な機関である。

公民館映画を子供（小中学校児童生徒）に観せる事の可否が、たまたま視聴覚関係者の会合や、PTAの研究会などで取り上げられ論議されるのであるが、相当に理解あり教養のある方々から、映画の影響によつて犯罪の動機となり子供を害する事が多いから絶対に見せたくないと云われ、映画は悪の温床であるかの如く発言される場合があるが、然しもうそんな時代では無いと思う。

私達の子供時代、今から四十年ほど前だつたと思うが、時又の駅の下の広場へ初めて活動写真が来た時のことであつた。それは外国物で新馬鹿大将というのであり、山高帽子に燕尾服の男が、「じいさん酒呑んでよつぱらつてころんだ」というような事を言つて洋傘を拡げて屋根から飛び下りたのであつた。

そのフワリと降りたのに感心して、早速その真似をして雨傘で実験した勇敢な仲間があつた。幸に無事でよかつたが、新馬鹿大将の尊称を頂戴したのであつた。

之は昔の話で、活動写真が映画と言われ、無声からトーキーとなり、天然色となり、科学の進歩に伴つて今日の映画技術はすばらしく躍進している。

公民館の劇映画は大人を対象にして作つたものだから、子供に見せるのは不適当であるという弁解はうなづけるのであるが、要は映画そのものにあると思う。公民館で採り上げる映画は、下伊那公民館運営協議会の視聴覚委員によつて選択されたものであり、本村に於ては学校の先生方に依頼し、子供に見せてよいかどうかを、映画の来る都度吟味して頂く事になつている。

然し劇映画など観る場合、父兄の皆様は子供と共々に観て頂き、その映画の内容について指導して頂きたいものである。

OIE映画は今はUSISと呼ばれているが、之は広く世界の国々の事情や国際知識や、現在国内に起つている時事問題を眼の前で知る事が出来るのであつて、子供にとつても大人にとつてもその視野を広くする事が出来るのである

私は六年間公民館の映画係となつて巡回上映の斡旋をして村中を歩いているが、それに就て批難されたり喜ばれたりしている。

映画を上映するにあたつて、時間を励行してほしいとか、公共物を大切にしてほしいとか、保健衛生に留意してほしいとか、マイクを通じてお願いして居るのであるが、まだ〳〵土足のまゝ会場へ上る人、泥下駄をそのまゝ持ち込む人、下駄箱に仕末して置いても、履けない草履にはきかえられてしまうというようなかなしい事態にあう事もある。つれて来た幼い子供が相撲をとつたり、とびまわつたりして会場の迷惑となつても案外平気でいる人もある。お互に注意し合つて社会的道義を守り合いたいと念願するものである。

（筆者は公民館芸能部長）

凶作に対処して

婦人学級の開設

過日公民館と婦人会とが協力して婦人学級を設立した。目的は、1婦人の教養を高める。2公民としての常識を高め、郷土社会の改善をはかる。3生活上の技術を修得する。4明るい家庭をつくることにある。

学級編成は獣科学級・長野原学級・時又学級・桐林学級・上川路学級の五学級とし、時にこの五学級を併合して綜合学級をつくる事もある。学級生は家庭の全婦人を対象とするものである。

之を運営するにあたつては、学級運営委員会（本館並に分館につくる）をつくり、根本方針を立てることとする。

教科課程は社会科・家庭科・芸能科の三科とし、単元を作り年次計画を立て、農閑期を縫つて開設する事とする。麦播を終つた十一月の上旬からまづ当面の課題であるところの凶作に対処する生活上の諸問題に就いて、婦人としての任務をはたすよう研究を開始する予定である。

講師は身近な村内の講師をお願いし、時に村外より適在者を招待する事とする。

経費は公民館と婦人会にて負担し、最小の経費で最大の効果をねらつている。

近日中に各学級は自覚的に細案を立て、実践に移るのである。

客土で二斗増收

×××岐阜方面を視察して×××

木曽谷を夜汽車で過ぎて、端渡の駅に下りる。まだ眠りよりさめない町並を通りぬけて、視察旅行の最初の見学個所、伊野氏の宅を訪れる。土間に立つ夜汽車に疲れた我等一行に対し、奥さんが熱をこめて自然農法の長所を力説される。その要点は、

1深耕、床を被つて一尺—二尺に冬起す。

2無肥料　藁のみ二分に細断し施用

3粗植、畦巾一、二尺—一、三尺、株間一尺

4客土　稲田はこぼし竹の如き葦と、大きな粒のついた穂に一同

「これはこきび畑と言う感じだ」

と感歎、たゞし宗教と関連があるだけに、ちよい〳〵とび出る非科学的な説明に納得出来ないものがある。とは一同の共通な感想である。

強くなつて来た陽ざしを浴び乍ら、岩の多い道をあえぎ登ること約一時間、木立がひらけて、白いすゝきの穂のなびく高原の間に黄金色の稲田が広々と眺められる。これこそ梅村先生の血と汗の開墾による結晶である。続く稲田の中には点々として農家が見られる。先生の宅に到着すれば縁側の毛皮の上に和服姿で坐られた先生は、こゝろよく一行を迎えられ、我等が座敷へ通るが早いか話を初められる。

「十九才の時こゝに登つて足三本手二本の姿で開墾を初めた。四尺に八尺の小屋を四日間で作つてそこに住んだ。その時考えた、誰にも平等に与えられた物が一つある。それは一年三六五日だ、これを生かそうと思つた。初めて三反六畝の田から十八俵とれた時は確信を得た。十年で一町三反六畝を拓き村一番になつた。金部で田三町余、畑五町余を開墾した」と説かれた。正に偉大なる開墾の労苦だ「先生の人生観、社会観は規則でかためた役所、斗争の社会に較べて農業は自然を育てるものだ。法律、規約がそんなに価値のあるものなら颱風をとめてみるがよい八、五九〇万の中飢える人、病苦貧困に悲しむ人がなくなつてこそ真の平和国家と言える。もつと生産者が優遇されなくてはならないきよう作を悲観するには及ばない沢山とれゝば土に貯金をし、とれなければ土に借金をし、とれなければよい。二、三万借金がある方が家族円満で精励出来る。一〇万の借金を切りぬけた人でなければ一〇万の金は出来ない。人生は上つたり下つたりだ。人が成功すればあの人はこれから下りじや、おれはこれから上りじやと思えばよい。笑顔で居る中にも権力におもねない片鱗がうかがわれる。

当面の食糧生産に対策するは、政府で各村へトヨペットを二台宛買い、一反四千貫の客土をし、一反歩二斗、一村平均四千俵の増産をする。一反歩二斗宛の米を出して村内の受配者に分け余りは東京大阪等へ出す」話は尽きないが予定の時間のため梅村先生の宅を辞し、改めて先生の拓いた稲田を眺めてその労苦をしのびゝ山を降る。

名古屋へ一泊、朝、東海道線乗車前の僅かの時間を青果市場へ赴く。所狭く並べられた荷、買売の人で雑沓を極める中を事務所へ行き説明を聞く、

「長野物は特色がありその役割は大きい。長野物を入れないと端境期に品が切れる。泯麻等も先づ長野物が入り、次に愛知物が入る。馬鈴薯は消費量がふえて価格が上昇している。生産量は昨年と変りがないのに今日の値段は、特千弐百円、大千百円で珍らしい相場である。貯蔵、輸出がき、安定性があつて将来有望な蔬菜である」

安城農事試験場は大型バスも三台入り多数の見学者がおしかけている。名古屋附近一帯は稲熱病もなく見事な稔りに入つている。安城附近の平均反収は六、五—七俵との事、十俵自標の試験田を紹介すると、

1、苗、坪一合播　五〇日苗

2、本田、耕土六寸　頁岩　一〇〇〇㌔

3、田植、六月二十一日

4、栽培密度　坪当六〇株（一尺×六寸）

5、施肥料　堆肥二〇〇㌔　石灰窒素七、五六㌔　塩安三、二㌔　熔成燐肥一〇㌔　塩加五㌔

竜丘村部落別戸数 人口

農家戸数の変遷

部落別		総戸数	人口	農戸数	人口
獣科	明治五年	一七四戸	八五八人	一六四戸	八二八人
	大正一五年	二七〇	一、五七六	一七八	九七九
	昭和二八年	二八四	一、五九〇	二二三	一、三五三
長野原	明治五年	四七	二〇六	四二	二〇一
	大正一五年	五三	四六四	四〇	二四七
	昭和二八年	六六	三三〇	四七	二六一
時又	明治五年	八六	四二四	五〇	二五〇
	大正一五年	一九六	一、〇七〇	七〇	三七四
	昭和二八年	二八〇	一、三三一	六二	三六九
桐林	明治五年	一四九	七一一	二三七	六六〇
	大正一五年	一六六	九七六	一一六	六四九
	昭和二八年	二三二	一、二五六	一六四	一、〇三一
上川路	明治五年	六六	三六二	六三	三五六
	大正一五年	九〇	五一八	六八	四〇八
	昭和二八年	九三	五四二	八四	五一二
計	明治五年	六二二	二、五六一	四五六	二、二九五
	大正一五年	七七五	四、六〇四	四七二	二、六六七
	昭和二八年	九四五	五、〇四〇	五八〇	三、五二六

優良種子は塩水選から

本村青年会産業部では、毎年籾種及び麦種子の塩水選を実施致して居ますが、本年は承知の通り凶作であつた為、麦の塩水選においては特に塩水の比重を若干上げ優良種子にする様努力した。

米作も坟字通りの不作である故麦作の麦においては、品種選定と適地適作に勤められ、豊な成績を得られる様希望します。

組合立中学は成立するか

中學校整備に關する研究

去る十月十四日竜丘村が主唱者となり、隣村（松尾・下久堅・龍江・川路・三穂）の村長・教育委員・正副議長・議会の文教委員・教育長・中学校長等の参集を求め中学校整備に関し研究懇談会を開いた。

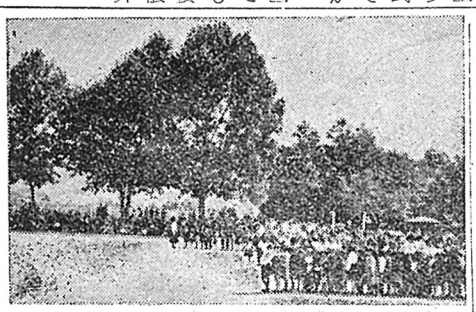
参集するもの四十五名、竜丘村林村長が座長に推され長時間に亘つて熱心に研究懇談が行われた。

一、どこの村も中学校整備が急務となつているが、共通の隣路は財政的処置である。

二、各村で独立中学校を建てるよりも、二ケ村或は三ケ村が協力して組合立中学校を建てる方が教育的見地からも、財政面からものぞましい

三、本日の研究懇談会に基いて各村は研究をする。

四、竜丘村が主体となつて、猶今後この研究懇談会を継続してほしいという事になり解散した。



写真上は全村運動会の一場面、右は庭球大会で優勝した女子チーム

盛会な全村運動会

去る十月十一日の全村運動会は快晴の日和に恵まれ盛大に挙行された。可愛い保育園児の遊戯、出席率のよい婦人会のダンスを始め村民運動の成果を充分あげる事が出来た。

分館対抗競技は選手の健闘、熱烈な応援に血をわかしたが、優勝旗は桐林分館の頭上に輝いた。

去る十月十一日の全村運動会は一俵半、肥料試験は藁と堆肥の混用区が最もよい。岩槻会館を背景に記念撮影をして試験場の門を出る。伊那とは異つて豊かに稔る稲原を淡しく思いつゝ駅に急ぐ。

（農事研究会）

農家の皆さんへ

米の乾燥は第一主義

本年度の稲作は近年にない災害を受けたが、被害を最少限度にとゞめるようつとめましよう。

(一)乾燥

古来「乾燥は米の生命である」と云われているが、米の乾燥が不良の場合には脱穀、もみ摺等の作業が困難で品質を損し、貯蔵中に腐敗、変質、虫害を被り易く、又精米の搗減りが多くなるので一に乾燥、二に乾燥と乾燥第一主義で進みましよう。

◎稲の乾燥

架はなるべく南北に通して架設し日光の映射を完全にしましよう

◎もみの乾燥

晴天の日に二日—三日雑干（一枚五升—八升）を必ずいたしましよう。

(二)調製

◎もみの調製

完全もみと被害もみとは区別するようにしましよう。

もみの調製が不良の場合には、もみ摺に当つて脱穀率が悪く、又もみと玄米の分離が悪くなるため、玄米の返摺が多くなり肌ずれ米が生じ易い。

従つてもみ摺前には必ず唐箕選を行い、しいな、夾雑物等を除きましよう。

被害を受けたもみは唐箕選をしていなを除き、完全もみとは区別してもみ摺しましよう。もみ摺もし易いし玄米の体上げがよいのです。

◎玄米の調製

本年度は被害粒、未熟粒、死米等の細粒が多いから、籾摺機の附属器のみでは充分除去出来ないので、米選機を使用してこれらを除き生産米の完全利用の点から、上米、屑米に仕分けましよう。

特にもみの混入しないよう注意して下さい。

(三)包装

◎俵とも

米の包装は貯蔵、保管、又は運搬に当つて正味量が欠減しないため、又病虫害によつて品質が変化しないために規格通りの新俵を使用して下さい。米を入れる前に必ず農産物検査官の予備検査を受けて下さい。

◎縄

従来は二、五分—三分位を使用したものが多いため、運搬中縄が切れ荷くづれを生じて困りますから、横縄、縦縄共に三、五分—四分の太目のものを使用して下さい縦縄は運搬中、保管中荷くづれが生じないために一筋で四方掛けにして下さい。

十月詠草

公民館歌会

○虫とりの撫子を播さんと畑に来れば既に盛りの時　橋爪丘の人

○冷え夜の更けてお客の言絶へばドライヤーの音大きく響く　久保田八寿代

○嫁ぎたる子が帰り来（く）と幾日も青草の中に葬保たず　木下きの

○何人が持つのか知らね木犀の花香（か）を放つ揺るる車内に　今村清松

○石垣の崩れしところ鈴虫のひそみ鳴く音を身辺にて聞く　木下右治

○利根川の岸辺は広き緑にて朝日に露のきらめきてをり　下平幸恵

○十七忌父の墓石はたちにけり長き願のかなふ夕ぐれ　北沢新太郎

○今日ひと日雨降りつづく隣家の冷凍工場の響も小さく　林一一

○上籠のいまだ終えざれば誘はるる映画こぼみて心晴れざる　原美好

○露に濡れ牛の餌を刈る足元にひきたがへるが逃れんとする　牧内清志

出詠者十四名、次回歌会　十一月十四日（第二土曜日）

庭球大会に優勝

各分館の成績は次のようであつた

桐林（五二点）　時又（四六点）　上川路（四〇点）　長野原（三九点）　獣科（三三点）

去る十月四日の中部支会庭球大会に於て（会場三穂学校庭）女子組（木下ふさ子、今村栄子）は、伊賀良、鼎、松尾、川路、三穂の女子組を薙き倒し美事に優勝旗を獲得した。

「主催は明確に」に答えて

学校で上映する有料映画会の主催は商信映画社であります。公民館では良い映画を安く皆さんに見て頂く機会を多く持ちたいと思い之を後援して居るのであります。随つて利益を目的にしておるのではありません。脱税もしておりません。

校舎使用料と電気料を役場へ支払つており、猶少額の後援料を受取つていますがそれは事業部の仕事の一助にもと考えております。猶不審の点は直接おたづね願いたいと思います。

（松原）

明年度水稻品種はなにか…適地適作

昭和二十九年度作付する水稲品種の撰択を目前に控え、左記の表を参考にして優良最適品種を撰びましよう。

稲橋試験地写

品種撰択上の基準

肥沃田向　金南風、邦栄

中等田向　黄金錦、金南風、綾錦

寒地向　綾錦、黄金錦

山田向　新山吹、若葉、うこん錦、黄金錦

湿田向　黄金錦、新山吹

イモチ常発田　ほまれ錦、黄金錦

早植　金南風　黄金錦、新山吹、中生

秋落田　秀峯

本年産米価格について

九月二十九日の閣議決定に基き十月五日告示された模様であるが内容は左記の通りであります。

一、基本価格（玄米）石当り、

○バリテー価格　七、二四五円

○特別加算額　四三〇円

○小計　七、六七五円

○減収加算額　切上　七、七〇〇円

○合計　五〇〇円

八、二〇〇円

前年まではバリテー価格にもとづいて米価決定をしましたが、本年産米に限り特別加算額等を組入れた価格であります。

二、等級別価格（六〇瓩、一俵当）

一等　三、三七五円　裸

二等　三、三四〇円　〃

三等　三、二八〇円　〃

四等　三、二三〇円　〃

五等　三、〇七〇円　〃

糯米加算額　四五〇円

包装代加算額

複式新俵　七〇円

複式古俵　四〇円

○早期供出奨励金（石当り）

第三期　十月二十一日より十一月十日迄　六五〇円

第四期　十一月十一日より十一月末日迄　四〇〇円

本年の作柄事情から延長を検討されており、四期共十日づゝ延期されました。

○供出完遂奨励金　石当り　八〇〇円

○超過供出奨励金　石当り　二、七〇〇円

○特別集荷制度については本年産米は実施しない。

下伊那穀物調製改良組合

竜丘村農業協同組合

時事雑録

▼百姓の汗の結晶である稔りの秋も予想外の不作を来たし、どこへ行つても凶作、凶作で殊更今年の秋は物淋しい。

▼一日の仕事を終え、皆あれた手にペンを持つてどうにか編輯した▼今后もどし〳〵皆様の投稿をお願い致します。